

50年先の大口町を見据えたまちづくり

トヨタ自動車「新部品センター」建設工事スタート

トヨタ自動車株式会社 新大口部品センター 完成イメージ図



町内には、日本国内だけではなく、

世界で活躍する企業がたくさんあります。またこれらの企業を支える協力企業があり、そして働いている皆さんがたくさんいます。

町では、将来にわたって子どもや孫たちが活躍する時代もずっと豊かであるためには、今の大口町を支えているこのような産業の形を維持・発展させることが重要だと考えています。

現在、土地利用の見直しによる企業誘致や念願の国道41号線の6車線化による幹線道路の整備など、常に50年先の大口町を見据えたまちづくりを進めています。

これらの取り組みが一つひとつ形になりつつある中、今回は町の企業誘致施策として第1号となる、萩島地区で建設工事がスタートした、トヨタ自動車株式会社「新部品センター」誘致の取り組みについて紹介します。

部品センターって

どんなところ？

新宮一丁目のトヨタ自動車 大口部品センターは、昭和53（1978）年1月に完成し、自動車の定期点検や事故により交換する消耗品や部品を、迅速に供給する拠点として40年以上当地で操業しています。

ご存知のとおり、自動車は多くの精密な部品で作られていることに加え、用途に合わせたいろいろな車種があるとともに、エンジンのほかハイブリッドや電気といった動力もあって、迅速に対応できるよう多種多様な補給部品を保管しておくためには、より大きな場所が必要となります。

トヨタ自動車も同様に、現部品センターでは手狭になってきたことから新部品センターの建設を検討することになり、平成26（2014）年12月に町に相談がありました。

オーダーメイド方式の企業誘致

企業が新しい工場を建てたり、他の自治体から移転してきたりすると、多くの雇用が生まれ、また固定資産税などの収入が得られるといったメリットがあることから、全国の自治体が競争して企業誘致の取り組みを進めています。

多くの自治体で進められる企業誘致の取り組みは、自治体で土地を求め、工業団地として造成し、分譲するという流れになりますが、他の自治体との違いを示して選んでもらえるような取り組みを進めないと、せっかくの企業誘致もつまきいきません。

そんな中、トヨタ自動車から相談を受けた町では、他の自治体ではほとんど見られない「オーダーメイド方式による企業誘致」を進めることにしました。

この方式は、町で工業団地を造成するのではなく、企業が新工場などを建てることを条件に、まずは、建設に必要な規模や立地条件といった企業の要望に見合う候補地を検討し、町が定める土地利用計画と照らし合わせ、企業に提案します。

提案内容について企業が了承し候補地が決定すると、必要に応じて町で用地の取りまとめを進めるとともに、開発の許認可など工場等を建てるために必要になる一連の手続きにも、伴走して支援するという流れとなります。

新部品センター誘致の取り組み

オーダーメイド方式の第1号となる新部品センターの誘致では、現部品センターの東側となる萩島二丁目を候補地として取り組みを進めることになりました。

候補地の地権者の皆さんには、大切な土地の提供という大きな決断をしてもらうことになるため、町では納得いただけるまで丁寧に説明し、いただいたご意見やご相談は、その都度トヨタ自動車に伝えて対応をお願いするなど、地権者の皆さんも企業も互いに理解が得られるように調整を図りました。

その結果、地権者や地区の皆さんに大きなご理解とご協力をいただき、無事に新部品センターの建設候補地が決まりました。

トヨタ自動車株式会社 新部品センター建設までの経過

2014年 12月	トヨタ自動車から大口町へ相談（以降、手法協議）
2015年 7月	トヨタ自動車から大口町へ用地確保の依頼文書提出
9月	町議会へトヨタ自動車支援について報告 地元説明会の開催
10月	トヨタ自動車と大口町で用地取りまとめ協定締結 用地交渉開始
2016年 5月	全地権者から同意取りまとめ完了
2018年 3月	開発・農地転用許可
6月	所有権移転登記完了
10月	新部品センター土地造成開始
2020年 7月	一部運用開始予定（2021年7月：本格運用開始予定）

地域に寄り添い大口から世界へ

いただいたご意見の中には、保水力のある農地がなくなってしまうことで新たな水害が発生するのではないかと、雨水の排水を心配する声が多くありました。

土地を開発するときには、都市計画画に基づいて雨水を一時的に貯める「調整池」を設置しなければならぬことになっていますが、雨水排

水への心配についてトヨタ自動車と協議した結果、最新の法律や規格に基づいた十分な容量のある調整池（都市計画法基準の2倍）を設置することになりました。

また、現部品センターと新部品センターを結ぶ構内連絡橋の設置や部品の積み下ろしをするスペースの完全屋内化など、交通渋滞の回避や騒音対策なども進める予定です。

他にも、ドライバーの不足や就労人口が減少する中で雇用を創出して、町民を始め国民の安定した生活基盤づくりに努め、また、太陽光発電や蓄電機能を充実させ、CO₂削減などの環境対策を図る取り組みも進めます。

地域に寄り添いながら、全世界に1億台あるトヨタ車が安全・安心に乗り続けられるよう、大口町から全世界に向けて交換部品を供給し続けられる、そんな新部品センターの建設工事がスタートしました。

50年先の大口町を見据えたまちづくり、将来にわたって豊かな大口町が続くよう、今後もさまざまな取り組みを進めていきます。

問合せ先

企業支援課 ☎95-11623